

# 日本IT書紀

## 181 崩れゆく“戦後”

10 迅風篇  
卷之二十五 懊惱

佃 均



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。

第百八十一

崩れ行く、戦後

一

七一年と七二年の出来事を時系列に記す。

一九七一年

1月22日 佐藤栄作首相が施政方針演説で、初めて中国を「中華人民共和国政府」と呼ぶ。

2月17日 京浜安保共闘が真岡市の銃砲店に押入り散弾銃十丁などを強奪。

22日 千葉県成田で新空港建設用地の強制代執行。逮捕者四八七名（〜25日）。

3月31日 ハイジャック防止条約を承認。

4月11日 第七回統一地方選挙（東京都知事に美濃部亮吉、大阪府知事に黒田了二）。

5月12日 三菱自動車工業とクライスラー社が提携。  
6月17日 沖縄返還協定締結。  
27日 第九回参院選挙（自民六三、社会三九、公明

一〇、民社六、共産六、無所属二）。

7月1日 環境庁設置（初代長官・山中貞則）。

3日 東亜国内航空のYS-11型旅客機が函館北方山麓に激突（六八名死亡）。

17日 今井通子がグラント・ジョラス北壁登頂（女性初の三大北壁登頂）。

30日 岩手県雫石上空で自衛隊ジェット戦闘機が全日空機と衝突（一六二名死亡）。

8月16日 東京証券取引所、ダウ平均株価が史上最大の暴落

27日 政府、為替変動相場制への移行を決定。

9月16日 成田新空港用地第二次強制代執行。機動隊員三名死亡、逮捕者四七一（〜9月20日）

21日 公明党委員長・竹入義勝が暴漢に刺され重傷。  
27日 天皇・皇后が初めて欧州歴訪（〜10月14日）。

10月1日 第一銀行と勧業銀行が合併し「第一勧業銀行」に。

11月27日 自民党、沖縄返還協定を強行採決。  
12月18日 警視庁警務部長宛てに小包爆弾。夫人が死亡。

○流行語  
列島改造／日本株式会社／ドルショック／脱サラ／東京ゴミ戦争／ガンバラナクツチャ／のんびりゆこうよ／こ

れにて一件落着／デイスカバー・ジャパン

○歌謡曲

また逢う日まで／わたしの城下町／花嫁／十七才／水色の恋／知床旅情／傷だらけの人生／雨の御堂筋／ナオミの夢／よこはま・たそがれ／おふくろさん／雪が降る

NHK総合テレビの全番組がカラー化され、TBSテレビの『8時だよ！全員集合』がレギュラー番組として驚異的な五〇・四％の視聴率を取り、素人参加の新人歌手スカウト番組『スター誕生』が人気を集め、『帰ってきたウルトラマン』『仮面ライダー』などで、変身ブームが起きた。

一九七二年

1月3日 日米繊維協定締結。

24日 グアム島で旧日本軍横井庄一軍曹発見（2月2日帰国）。

2月3日 札幌冬季オリンピック開催（13日）。

19日 連合赤軍あさま山荘事件（28日）。

3月15日 山陽新幹線の新大阪―岡山間が開通。

26日 奈良県高松塚古墳で石室に極彩色壁画を発見。

5月15日 沖縄施政権返還。「沖縄県」として日本に復帰。

24日 佐藤首相、中国共産克政府を「中国の唯一の

正統政府」と認める。

30日 イスラエル・テルアビブ空港で過激派ゲリラ

が小銃を乱射。死亡二十六人。首謀者は連合赤軍の岡本公三。

6月11日 田中角栄『日本列島改造論』を発表。

7月7日 田中内閣が発足。

25日 公明党竹入委員長らが訪中。

9月1日 ハワイで田中―ニクソン会談。

17日 自民党椎名副総裁が台湾を訪問。

25日 田中首相が中国を訪問。

10月9日 第四次防衛力整備計画を正式決定。

11月5日 上野動物園、中国から寄贈のパンダ二頭を一般公開。

13日 女優・岡田嘉子、三十四年ぶりにソ連から一時帰国。

12月10日 第33回総選挙（自民、二七一、社会二一八、

共産三八、公明二九、民社一九、諸派二、無所属一四）

属一四）

○流行語

三角大福／総括／甘えの構造／恍惚／未婚の母／わんぱくでもいい／あつしにゃかかわりのねえことござんす／ナウい／恥ずかしながら／どうにもとまらない／ア

へアへ。

○流行歌

瀬戸の花嫁／旅の宿／結婚しようよ／さよならをするために／ひとりじゃないの／雨／別れの朝／ピンポンパン  
体操／だれかが風の中で／学生街の喫茶店／たどりついたらいつも雨ふり／ひなげしの花／北国行きで／どうにもとまらない／女のみち／終着駅／あの鐘を鳴らすのはあなた／せんせい／喝采。

緒方拳扮するところの藤枝梅安らが極悪人を殺す『必殺仕掛人』、太刀捌きはカッコ悪いがニヒルな渡世人を描いた『木枯し紋次郎』が人気を集め、平岩弓枝脚本の『ありがとう』が五六・三%の視聴率新記録を作り、刑事アクションドラマ『太陽にほえろ！』が始まった。テレビコマースヤルに遠藤周作、山口瞳、岡本喜八、中原誠、植草甚一などが登場した。

二

第二次大戦の終結から二十五年、日本は自他ともに認めらるゝ経済大国に成長を遂げていた。東京オリンピック、大阪万博を経て、人々は「昭和元祿」を謳歌していた。

この発展は、いうまでもなく「貿易立国政策」によって

もたらされた。それは一ドル＝三百六十円という固定為替レートによって支えられていた。経済という視点で見れば、「もはや戦後ではない」と宣言した一九五一年は「戦後体制」が始まった年でもあった。

前節に掲げた七一年と七二年の出来事から読み取れるのは、その「戦後体制」の崩壊にほかならない。ここで日本は大きく回頭したのである。

一ドル＝三百六十円の為替レートが決定したのは、一九四九年四月二十九日である。以下のことは第八十九「一ドル＝三百六十円」の繰り返しになる。

このレートの決定はGHQによって行われ、日本政府はまったく関与していなかった。というより、日本政府は商品ごとに異なる為替レートを設定する複数为替制度の創設をひそかに検討していたが、GHQはこれを無視して一方的に固定レートを決定したのであった。

『わが国の金融制度と金融政策』『日本銀行』など百冊を優に超える著書を持つ吉野俊彦は当時、日本銀行の調査局に勤務していた。いわば複数为替レート制度立案の中心人物といつていい。

ところが彼は後年、

——どのような経緯で三百六十円のレートが設定されたのか、まったく知らなかった。

と述懐している。

一般論として、その決定にはデトロイト銀行頭取でGHQ特別顧問として四九年二月に来日したジョセフ・ドッジが深く関与している、といわれる。

来日したドッジの目の前には、激しいインフレがあった。敗戦処理に伴う臨時軍事費特別会計と傾斜生産方式による復興金融庫融資が通貨を増発し、インフレの元凶となっていた。

日本政府は生産拡大を優先し、段階的にインフレ収束を図る「中間安定論」を唱えたが、インフレの収束を重視するアメリカ政府の「一挙安定論」が優勢となった。アメリカは日本を反共陣営の一員として位置づけるために、経済の「自立化」「安定化」を図ろうとした。これを具体化したのがドッジ・ラインだった。

来日後初の記者会見で、ドッジは

「日本の経済は両足を地につけていず、竹馬にのっているようなものだ。竹馬の片足は米国の援助、他方は国内的な補助金の機構である。竹馬の足をあまり高くしすぎると転んで首を折る危険がある」

と語り、また

「為替レートの実施はできる限り早く公式に設定されることが望ましい」

と述べ、単一固定レートの設定を主張した。

そのベースとなったのは四八年に来日したアメリカ連邦準備制度理事会（FRB）調査統計局長ラルフ・ヤングの報告書である。彼は日本の国際社会への復帰を前提に、GHQから円・ドル為替レートにかかわる調査を行った。

のち五七年五月から、吉野は日銀からFRBに出向し、ワシントンの事務所でラルフ・ヤングの下で金融政策の調査研究に従事したが、むろんそのときは直属の上司が円・ドル為替レートの決定に重要な役割を担った人物とは思いつまなかつた。

一九七一年の一月、日銀理事に昇進していた吉野のもとに分厚い封書が届けられた。差出人はラルフ・ヤング、このとき国際通貨基金（IMF、四五年十二月発足）顧問。封筒の中に入っていたのは二十四年前に彼がGHQに提出した報告書の写しだった。

そこには固定レートによる単一為替制度が強調され、

「一ドル＝三百円前後が適当と確信する」

という文言が示されていた。かつ、上下一割程度の浮動性をもってGHQが設定する権利を持つよう勧告していた。

ところで国際為替レートにおけるドルの地位は、それまで国際標準通貨の座にあったポンドの凋落と交錯している。このあたりは経済学の基本的な知識として抑えておかな

ければならないのだが、金との兌換性および、外貨準備高とのかわりなどが複雑に絡み合うため、一言で説明するのが難しい。

一ついえることは、第二次大戦後にイギリスがポンドを切り下げたとき、アメリカの金保有量は世界の七二％に相当する二百四十八億ドルだった。金との兌換性が最も高い国際通貨だった。

ところが朝鮮戦争をきっかけにアメリカが保有していた金は流出に転じ、さらにマーシャル・プランに基づいて第二次大戦直後の欧州復興に投じられたIMF枠外のユーロ・ドルがアメリカに還流し始めた。これによりアメリカの金準備高は一〇〇％を割り込み、世界の投資機関はドル選好から金選好にシフトした。

つまり戦後の世界経済の基盤でもあった「金一オンス＝四十ドル」の固定相場——IMF体制——にはころびが生じていた。ここにベトナム戦争の戦費増加が追い討ちをかけた。

対して日本は西ドイツと並んで貿易黒字を積み上げていた。そのプロセスは、世界経済におけるアメリカの地位が相対的に低下し、日本と西ドイツ、とりわけ日本の地位の相対的な上昇を生み出した。

例えば国民一人一時間当たりの国内生産量（GDP）の

年間上昇率を見ると、一九五〇年から七六年にかけて、アメリカが二・三％であったのに対し、日本は七・五％、西ドイツは五・八％、イタリアは五・三％だった。生産性上昇率において、日本はアメリカの三倍を超えていた。

### 三

貿易黒字を重ねた結果、日本には膨大な額の外貨が集まった。

一方のアメリカは保有する金の流出に悩んでいた。

日本の「円」は外貨準備高によって支えられ、かつドルの国際信用力に裏打ちされていた。そのドルの信用度が低迷しつつあった。国際経済政策として「円とドル」の関係見直しが迫られるのは時間の問題だった。

この状況を日本はどのように分析していただろうか。

まず大蔵省は、「ドル陣営」の一員として、ドル防衛に立つ意向を固めていた。強まる円買い圧力に、ドル買いで対抗しようというのである。

このとき大蔵省事務次官だった鳩山威一郎は、ドル防衛策一辺倒では危険と考えていた。このため「欧州派」——ポンド、フランの変動為替制度を「円」にも導入すべきとする考え——の論者である竹内道雄を大臣官房長に、津島

雄二を参事官に、佐上武弘を調査企画課長に、それぞれ配置して対応策の検討を進めていた。

五月九日、西ドイツが対ドル変動為替制度への移行を正式に表明した。主要国で態度が明確でなかった日本の「円」に世界の投資機関が目を向けた瞬間だった。日本の対応が遅れた。

アメリカ・ワシントン現地時間で八月十五日日曜日の午後八時、アメリカ大統領・ニクソンは

——ドルと金の交換を停止する。  
と発表した。

日本では八月十六日の月曜日午前十時だった。

東京外国為替市場ではすでに取引が始まっていた。このとき財務官だった細見卓（のちニッセイ基礎研究所会長）は、

——商社や旅行者の金繰りがつかなくなる。

と判断して、市場を閉鎖することに消極的だった。

投資三課長だった大場智満（のち財務官を経て国際金融情報センター理事長）は、市場を閉め、再開したとき円高の大波が襲ってくる、と考えた。

細見の判断が通った。

日銀は必死のドル買いで防戦した。市場を閉鎖した八月三十日までの間に、日銀が買ったドルは総額四十億ドルに

達していた。外貨準備高の約半分が、東京市場の十一営業日でドルに交換されたのだ。

ドル・金交換の一時停止が発表された直後、東京証券取引所が暴落した。十九日、ダウ平均株価は二千百九十円六〇銭の最安値をつけ、経済は混乱を極めた。

八月二十七日、大蔵省は変動為替制度への移行を決定し、翌二十八日から実施した。ややしばらく一ドル＝三百六十円が維持されたが、十月に一ドル＝三百三十三円、十一月に三百二十九円とギリギリと円高が進み、十二月には三百二十円になっていた。日本政府に思い切った円の切り上げが求められた。

結局、円・ドルの為替レートは、その年の十二月十八日、ワシントンロ・ののスマソニアンで開かれた十か国蔵相会議で「一ドル＝三百八円」と決定した。切り上げ率は一六・八六%だった。

この時点でアメリカは、ラルフ・ヤングの報告書「一ドル＝三百円」の考え方を強く押し出した。

ヤングが吉野俊彦に報告書の写しを送付したのは、アメリカ政府の意図を事前に知らせようとした配慮だった、と見ている。であればこそ首相佐藤栄作はワシントン・スマソニアン十か国蔵相会議に出席する細見卓を官邸に呼んで、「三百五十円まで譲歩していい」

という指示を下したのではなかったか。

#### 四

このとき、大蔵大臣だったのは水田三喜男である。

彼は一ドル＝三百八円への対抗策として、ひそかにデノミを考えていた。百円を一円に切り上げるのである。この考えを始めて公の席で明らかにしたのは、六七年の国会答弁だった、とされている。

首相佐藤は消極的——というより、引退を決意していた——ために、大胆な変革を求めなかった。ニクソンのドル防衛策が発表される直前の七一年七月にも、水田は

「デノミをやるべきだという意見には変わりはない」

と記者会見で語っていた。

事務次官の鳩山威一郎、調査企画課長の佐上武弘もまたデノミ論者だった。「デノミに向けた最強の布陣」といわれていた。八月二十五日、水田は記者会見で、七三年一月一日から現在の百円と等価の通貨単位を設けることを目途として所要の準備を進める、と発表する予定だった。だがこの計画は、大蔵省の理財局と造幣局の反対でお蔵入りとなった。

理財局は言った。

——補助単位「銭」が必要になり、かえって煩雑になる。また造幣局は、

——コインを全面的に切りかえるには時間がかかりすぎる。

と反対した。

経済効果や国際通貨としての「円」の信用力向上という視点はまったくなかった。結局、首相・佐藤が「見送り」を指示し、水田のデノミ計画は幻に終わった、といわれる。リチャード・ニクソンは、このドル防衛策でアメリカ経済の建て直しを目指したが、三つのことを見落としていた。

ために、ねらい通りの効果を上げることができなかった。一つはベトナム戦争を早期に終結できなかったことだった。ニクソンは必死の努力をした。

七月九日に補佐官ヘンリー・キッシンジャーをひそかに中国・北京に派遣し、周恩来首相と会談させ、同年十月にも再度、キッシンジャーを派中してベトナム和平工作への協力を依頼した。台湾国民政府の代わりに中国共産党政府を中国の代表として認めるというのが交換条件だった。

翌七二年二月二十一日、ニクソンは北京空港に降り立ち、中国共産党主席・毛沢東、首相・周恩来と会談した。中国は北ベトナムへの軍事援助を弱め、アメリカも可能な限り速やかに軍を撤退するという合意が成立した。中国共産党

政府が国連で代表権を認められたのは十月二十五日である。とはいえ、アメリカは南ベトナムを見捨てることができなかつた。七二年五月、アメリカ軍は北ベトナムへの爆撃を強化するとともに、港湾を機雷で封鎖する作戦に出た。

その一方で、キッシンジャーは八月十四日にパリで北ベトナム政府代表のレ・ドク・トと秘密会談を行い、和平協定案を示していた。十二月十八日には過去最大の規模をもって北ベトナムのハノイ、ハイフォンを爆撃したのだから、アメリカのやり口は矛盾に満ちていた。要するに自分たちが撤退した後、南ベトナムが負けないよう、叩けるだけ叩いておこうという作戦だった。

七三年一月二十七日、パリでベトナム和平協定が調印され、アメリカ軍が南ベトナムから撤退を完了したのは二月二十八日である。とりあえずアメリカはベトナムの泥沼から足を抜くことができたが、ラオス、カンボジアの混乱という難問が残っていた。

#### 戦費の縮小↓国内経済の回復

というシナリオが動き出すには、もう少し時間が必要だった。

二つ目は、ドルの信用低下を甘く見ていたことだった。

七一年十二月十八日のワシントン・スミソニアン十か国蔵相会議で「金一オンス≡三十八ドル」「一ドル≡三百八円」

の新しい為替レートが定まったものの、ドル売りは勢いを失わなかつた。スミソニアン合意では、新しい為替レートの上下最大二・二五%の範囲で変動を認め、その範囲を維持するよう、各国が市場に協調介入することになっていた。二・二五%の変動幅内に為替レートを維持するには、相当の外貨準備がなければならぬ。翌年六月、イギリスがスミソニアン体制からの離脱を宣言し、国際通貨危機が再燃した。ヨーロッパ主要国がスミソニアン体制からの離脱を決定したのは七三年三月十一日だった。

これがニクソンの三つ目の見落としだった。

中東の産油国は油井の開発をアメリカ大資本に依存し、原油の輸出をドル建てで行っていた。原油のほかに輸出するものがない砂漠の国は、ドル安で収入が大幅に減った。油井がアメリカ資本に抑えられていることに対して、民族主義が勃興した。

国内経済の建て直しを優先するあまり、中東に与える問題を軽視したアメリカのやり方は、世界経済における南北問題を生み出した。

七二年十月、石油輸出国機構（OPEC）は、

——石油関連企業の株式の五—%以上を国有化すること  
を目標に設定した。

これが七三年から七四年にかけて起こったオイルショック

クに結びつき、ひいては中東におけるイスラム革命戦争の  
下地となっていく。アメリカはベトナム戦争に続いて、  
「中東」という重い荷物を背負うことになる。

~~~~~ 補注 ~~~~~

黒田了一 くらだ・りょういち／1911～2003。大阪に生まれ一九三三年東北大学を出て満州の大同学院の教官となった。四五年八月十四日ソ連軍の捕虜となりシベリア抑留から五〇年帰国、五六年大阪市立大学で憲法学教授となった。戦争の放棄をうたった日本国憲法の護持を訴え社会・共産推薦で七一年大阪府知事選に立候補し当選した。高齢者医療費の無料化、府営春木競馬廃止、同問題解消などに取り組んだ。三期目を迎えた七九年の選挙で自・社・公・民・社民推薦の岸昌に敗れた。

山中貞則 やまなか・さだのり／1921～2004。鹿児島に生まれ一九四一年台湾・台北第二師範を出た。戦後、鹿児島県議となり五三年鹿児島三区から衆院議員となった。七〇年佐藤内閣で総理府総務長官、環境庁長官、田中内閣で防衛庁長官、中曽根内閣で通産相。八八年消費税法案をまとめたが八九年辞任、九〇年の総選挙で落選した。

YS-11型旅客機 第二次大戦後、日本が開発した初の中型輸送機で、一九六二年に初飛行し、七二年に製造を終了した。全幅三十二メートル、全高八・九九メートル、最大巡航速度毎時四百七十四キロ、航続距離三百三十キロだった。六十二人から六十七人を乗せることができた。試作機二機を含め一八二機が作られた。

今井通子 いまい・みちこ／1942～ …東京に生まれ六六年日本女子医大を出た。学生時代から登山のスペシャリストとして知られ、大学卒業の六六年一ノ倉島帽子沢奥壁ダイレクトルート初の登攀に成功、六七年マッターホルン北壁、六九年アイガー北

壁、七一年グランド・ジョラス北壁の登攀に成功した。アルプス三大北壁に成功した初の女性となった。

竹入義勝 たけいり・よしかつ／1926～ …長野県に生まれ陸軍士官学校在学中に終戦となり、戦後は国鉄機関区職員となった。結核に罹ったことから五三年創価学会に入信、六三年政治大学校を出て六四年公明党結党とともに副書記長、六七年公明党第三代委員長。八六年に委員長を退任するまでの二十二年間、書記長・矢野絢也とコンビを組み国会議員八十人、地方議員三千六百人を擁するまでに党勢を拡大した。六九年、藤原弘達らの『創価学会を斬る』の出版をめぐって言論出版妨害事件の際、委員長辞任を表明したが党内の反対でとどまり、政教分離に努めた。

第一勧業銀行 一九七一年、当時都銀第六位の第一銀行と第八位の日本勧業銀行が合併して発足した。合併により当時一位だった富士銀行を上回る規模となった。二〇〇三年日本興業銀行、富士銀行と合併して「みずほ銀行」となった。

8時だよ！全員集合 人気コメディグループのザ・ドリフターズを起用して、一九六九年十月から東京放送系列で土曜日午後八時から九時に放送された。六七年三月に新宿コマ劇場で行われた公演「春だ 若さだ 全員集合!!ザ・ドリフターズ」に着目した東京放送が四月から放送した特別番組「ザ・ドリフターズ・ドン」が発展した。放送開始から平均視聴率が三〇%超というオバケ番組だった。八五年九月まで計八百三回という長寿番組となった。

スター誕生 一九七一年十月から八三年九月まで日本テレビ系で放送された新人歌手発掘番組。公開オーディションを経て決勝に残った出場者に対してレコード会社や芸能プロダクションが契約希望を意思表示するかたちだった。応募総数は約二百万通に及び、

予選通過者は約六十万、番組出場者は五千五百組、決戦大会出場者は四百二十三組で、ここから森昌子、桜田淳子、山口百恵、城みちる、伊藤咲子、片平なぎさ、岩崎宏美、新沼謙治、ピンク・レディー、石野真子、柏原よしえ、小泉今日子、中森明菜、松本明子などが出た。番組の名は、当時テレビ作家だった阿久悠が付けた。

帰ってきたウルトラマン 一九七一年四月から七二年三月まで東京放送系で毎週金曜日の午後七時から三十分放送された円谷プロダクション制作の特撮映画。

仮面ライダー 一九七一年四月から七三年二月まで毎日放送・NET系で放送された特撮変身ヒーローもの実写映画で石ノ森章太郎が原作と漫画の執筆を担当した。原作者・石ノ森は当初ガイコツをモチーフにした怪奇もの「スカルマン」を考えていたがテレビ局や雑誌社などから「ガイコツでは支持されない」と反対された。バツタの顔がガイコツに似ていることに気づき、バツタがベースになった。

横井庄一 よこい・しょういち／1915～1997。愛知県に生まれ、陸軍に応召して第二十九師団の食料・弾薬運搬部隊の兵卒となった。四四年アメリカ軍が投降を呼びかけた際、本隊は降伏したが投降命令が伝わっていなかった。アメリカ軍が空中から撒いた宣伝ビラなどで戦争が終わったことは知っていたが、出て行ったら処刑されるのではないかと考えた。七二年二月二日現地の漁民に発見され保護された。

その二年後の七四年二月、フィリピンのレストランで元日本陸軍少尉・小野田寛郎（おのだ・ひろお／1922～2014）が救出されたが、中野学校で教育を受けた諜報将校と一兵卒の違い

が興味本位で取りざたされたり、私生活を報道されたり当人たちには迷惑なことが少なくなかった。

高松塚古墳 奈良県明日香村に存在する直径約十八メートル、高さ約五メートルの円墳。一九七二年三月に奈良県立橿原考古学研究所が行った発掘調査で鮮やかな彩色が残る壁画が発見された。北壁に玄武、西壁に男女人物群像、東壁に青龍、天井に星宿が描かれており、唐や高句麗の影響が確認された。極彩色壁画は、国宝に指定されている。

その後の調査で最大幅約二・五メートルの周濠が見つかり、築成時は下段が直径二十三メートル、上段が直径十八メートルの二段の円墳と確定した。また最下層に飛鳥期（六九〇年代～七一〇年）形式の須恵器四点が混じっていたことから、二〇〇五年二月、文化庁は「築造時期は藤原京期とみられる」と発表した。

岡田嘉子 おかだ・よしこ／1902～1992。広島県に生まれ一九一八年（大正七）東京女子美術学校を出て二〇年舞台協会に参加し、二二年帝国劇場で初舞台を踏んだ。二三年映画に初出演し二五年日活専属女優となり二七年『椿姫』の撮影中に俳優・竹内良一と失踪し、恋の逃避行」として話題になった。三八年一月、演出家の杉本良吉と樺太国境を越え、消息不明となる。スターリンによる大粛清のソ連で二人はスパイ容疑で国家警察に逮捕され杉本良吉は銃殺、岡田嘉子は収容所に送られたが十年後に解放されモスクワ放送のアナウンサーとなった。のち同じソ連に潜入していた滝口慎太郎と結婚したが七二年に夫が死去したためその遺骨とともに同年十一月帰国した。七四年に再度来日しテレビなどに出演、八六年にモスクワへ帰った。

緒方 拳 おがた・けん／1937～2008。本名は「伸明」。

東京に生まれ五七年都立竹早高校を出て新国劇に入り六〇年『遠い一本の道』で主役、六五年NHK大河ドラマ『太閤記』で豊臣秀吉役を演じ高橋幸治（一九三五）の織田信長と好対照な軽妙さで人気となった。テレビ時代劇『必殺仕掛人』で愛嬌と凄みのある奥深い演技を見せ、映画『砂の器』『八甲田山』『鬼畜』などで人間の多面性を演じることができるとして不動の地位を固めた。

必殺仕掛人 池波正太郎の小説『仕掛人・藤枝梅安』を原作にNET（のちテレビ朝日）系列で七二年九月二日から七三年四月十四日まで計三十三回放送された。最初の二回を深作欣二が監督した。際立った陰影と色彩の映像を作った。

木枯し紋次郎 一九七二年フジテレビ系列で計十八回放送された時代劇で第一回から第三回まで市川崑が演出を担当した。渡世人・木枯し紋次郎が「あつしにはかかわりのねえことでごんす」と言いつつ、社会的弱者について手をさしのべていく。本来は経営難に陥った大映が映画製作資金を得るために製作を受けた。クイズ番組「クイズ・タイムショック」の司会で人気があつた俳優・田宮二郎（一九〇五～一九七八）が笹沢佐保の原作を持ち込んだ。平岩弓枝 ひらいわ・ゆみえ／一九三二～…東京・代々木八幡宮司の家に生まれ日本女子大学を出て小説家を目指した。五九年

『塾師（たがねし）』で直木賞。七二年『かまくら三国志』、七四年『御宿かわせみ』、七五年『へんこつ』など小説を書くかわらテレビドラマの脚本も手がけ『肝っ玉母さん』『女と味噌汁』『ありがとう』などで知られる。

ありがとう 東京放送系列で七一年に第一作が放送された。東京の下町に暮らす母一人娘一人の日常を描くホームドラマで、演歌

歌手・水前寺清子に石井ふく子がトイレで出演交渉したというエピソードがある。

太陽にほえろ！ 日本テレビが石原プロと組んで七二年から放送した。石原裕次郎、渡哲也を軸に「警視庁七曲警察署捜査第一課」を舞台にハードボイルドと人情を織り交ぜ、派手なカーアクションが話題となった。町おこしの一環でロケの誘致合戦が起こるなど社会現象を生み出した。このドラマから萩原健一、松田優作、勝野洋、神田正輝といった男優が輩出した。

遠藤周作 えんどう・しゅうさく／一九二三～一九九六。東京に生まれ満州の大連に移り住んだ。三五年夙川カトリック教会で受洗、洗礼名「ポール」を得た。四三年慶應義塾大学文学部予科に入り、四七年初のエッセイ『神々と神と』が雑誌「四季」（角川書店）に掲載された。五〇年フランスのリヨン大学大学院に留学したが体調を崩し五三年に帰国した。同年処女エッセイ集『フランスの大学生』を出版、五五年小説『白い人』で第三十三回芥川賞。七〇年代からテレビCMに出演するなど多彩な活動を展開、洒脱なエッセイ『狐狸庵閑話』が人気を集めた。七〇年ローマ法王庁からシベストリ勲章、七七年芥川賞の選考委員、七九年芸術院賞、八一年芸術院会員、八五年日本ペンクラブ会長、九五年文化勲章を受けた。

山口 瞳 やまぐち・ひとみ／一九二六～一九九五。東京に生まれ早稲田大学を中退して鎌倉アカデミアに学び、のち国学院大学日本文学科を出て国土社、河出書房、五八年寿屋宣伝部に入った。開高健らとPR雑誌「洋酒天国」を編集するかたわら書いた小説『江分利満氏の優雅な生活』で直木賞。主な著作に小説『人殺し』『家族（ファミリー）』、エッセイ『男性自身』などがある。

岡本喜八 おかもと・きはち／1924～2005。鳥取県米子市に生まれ、四三年東宝に入った。映画界にはいるきっかけはジョン・フォード監督の西部劇『駅馬車』などに魅せられたためだった。その直後に戦時徴用され、豊橋予備士官学校などを経て戦後復職し、成瀬巳喜男監督らの助監督を務めた後、五八年『結婚のすべて』で監督としてデビュー、五九年自作脚本の戦争風刺活劇『独立愚連隊』で監督としての地位を確立した。

中原 誠 なかはら・まこと／1947～。鳥取県に生まれ将棋の高柳敏夫門下に入つて五八年六級、六一年初段、六五年十八歳で四段となり奨励会からプロ棋士となった。六七年六段、六八年七段、六九年八段となり、二十四歳のとき（七二年）大山康晴から名人位を奪取した。棋風は「自然流」と呼ばれ、二〇〇三年日本将棋連盟会長に就任した。

植草甚一 うえくさ・じんいち／1908～1979。東京に生まれ一九三〇年早稲田大学理工学部に入ったが除籍処分となった。三五年東宝に入り四四年新宿文化座主任となり空襲の中でも映画の上映を止めなかった。四七年フリーとなり映画評論や海外ミステリーの翻訳を始め、並行してモダンジャズ評論を手がけた。以後、米欧のジャズやポップスの専門評論家となり、エッセイ集も出した。

1ドル＝三百六十円 この為替レートが決定したのは一九四九年四月二十九日である。日本政府は複数為替制度の創設をひそかに検討していたが、GHQはこれを無視して一方的に固定レートを決定した。一般論として、その決定にはデトロイト銀行頭取でGHQ特別顧問として四九年二月に来日したジョセフ・ドッジが深く関与しているといわれる。

吉野俊彦 よしの・としひこ／1915～2005。千葉県に生まれ一九三八年東京帝国大学法学部を出て日本銀行に入った。四一年調査局に配属され六六年調査局長、七〇年理事、七四年山一証券経済研究所理事、八四年同研究所会長、八五年顧問。『わが国の金融制度と金融政策』『日本銀行』など計百二十二冊もの著書を出版し、森陽外の研究者としても知られる。

水田三喜男 みずた・みきお／1905～1976。千葉県の富農に生まれ、三一年京都帝大法学部を出て北越石油に入り、大同石油取締役を経て四六年、自由党から立候補し衆院議員となった。吉田内閣で経済審議庁長官、五五年の保守合同で誕生した自由民主党で政調会長を務め、石橋内閣で通産相、池田・佐藤内閣で蔵相。京大時代はマルクスに傾倒し、柔道五段、剣道三段の腕を見込まれて河上肇のボディガードを務めたこともあった。

佐上武弘 さがみ・たけひろ／1922～2018。  
一九四八年東京大学法学部を出て大蔵省に入った。六九年銀行局課長、七一年大臣官房調査企画課長、七三年近畿財務局長、七五年大臣官房審議官、七七年大臣官房長、七八年財務官を経て八六年モルガン銀行国際顧問となった。

ヘンリー・キッシンジャー Henry Alfred Kissinger／1923～ドイツに生まれナチス・ドイツのユダヤ人迫害を逃れて一九三八年アメリカに移住、四三年アメリカ国籍を取得した。ハーバード大学で博士号を取り五〇年代末から同大学教授として外交委員会に関与し外交安保専門家となった。アイゼンハワー、ケネディ、ジョンソン大統領時代に国家安全会議と國務省顧問を経てニクソン政権で大統領補佐官に抜擢され、ソ連との戦略兵器制限条約、七一年には極秘に中国を二度訪問し米中和解への道筋をつけた。

七三年ベトナム和平によりノーベル平和賞。同年から七七年まで  
国務長官を務め、二〇〇二年十一月の同時多発テロ後、真相を究  
明する特別委員会委員長となった。

# 日本IT書紀 181 崩れゆく“戦後”

著 者：佃 均

発行者：（特非）オープンソースソフトウェア協会  
<http://www.ossaj.org/>  
[info@ossaj.org](mailto:info@ossaj.org)

発行日：2023年4月10日

本作品は2004年-2005年ナレイ出版局より刊行された「日本 IT書紀」全5分冊を底本とし、原著者が一部改定を加えたものを複数の電子書籍に再構成して CC-BY-NC-ND ライセンスにより公開します。



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。